



自著紹介

第4回

“ To Organize Activities of Community-Based Rehabilitation Officials: The Problems and Measures for Organizing Activities ”



Morita Hiroaki
Lap Lambert Academic Publishing
2017年
494.78||Mo66
図書館3階書庫(洋書)に配架しています

多職種によるチームアプローチは、医療機関、施設、在宅に関わらず必要になります。しかしながら、実際の支援場面では、この多職種の連携が不十分な側面がみられます。わが国をみても、保健・医療・福祉連携の必要性が叫ばれて30年以上経つものの、その具体的方法論については、一部の事例紹介などにとどまっており、一般化されていません。この問題を生む原因の一つとして関係実務者間の意識のずれがあり、支援活動のなかで使われる言葉、あるいはキーワードについて、関係実務者間でコンセンサスが得られているかどうか重要になります。

支援活動においては、Community-Based Rehabilitation: CBR (地域リハビリテーション) の用語が使われます。本書は、CBR活動における多職種間の連携を促進すべく、関係実務者が捉える CBR の意識のずれに関する現状の問題点を実態調査結果にもとづいて述べ、さらにその対策について論じています。